設計を学んだ人も学んでない人も、改めて、基礎をおさらいしてみよう

みんなの設計ドリル

監修:長谷川順持（はせがわ じゅんじ）

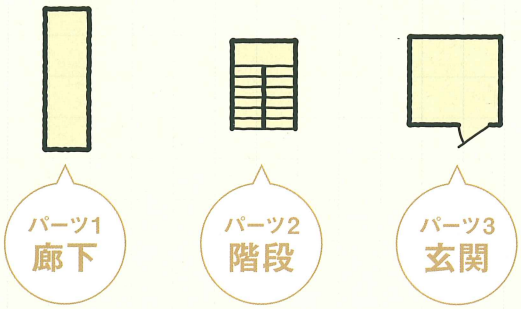
長谷川建築デザインオフィス代表。“生き活き住宅創り”をモットーに、住み手の想いを楽しいアイデアで実現。近刊『とっておき住宅デザイン図鑑』が大好評発売中。必読！

http://www.interactive-concept.co.jp

問題 家族の自然なふれあいを重視した1階の間取りを考えなさい

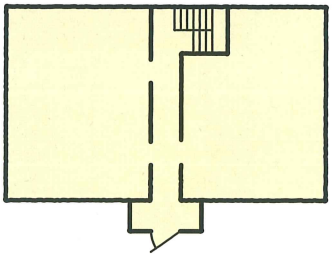
1階の建築面積
約66㎡(20坪)の想定
形状は自由

- 2階建ての1階部分を想定
- 廊下・階段・玄関の3つのパーツを使用すること
- 廊下は入れなくてもよい



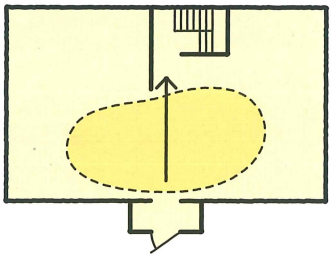
考察 玄関と階段の位置で、出会いやふれあいは大きく変わる

真ん中玄関-分断型



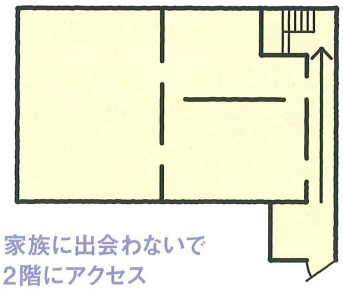
- 家族に出会わないで2階にアクセス
- 廊下で部屋が分断され、つながりが乏しくなる
- 冬は廊下が寒くなりがち

真ん中玄関-広がり分断型



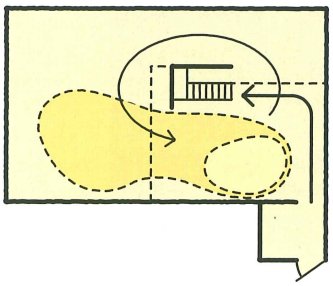
- 家族に出会ってから2階にアクセス
- 部屋の広がりはあるが、中央を動線が通っているため落ち着きが損なわれる

角玄関-分断型



- 家族に出会わないで2階にアクセス
- 部屋同士のつながりはあるが広がりが乏しい
- 廊下の面積が多くなる

角玄関-広がり型

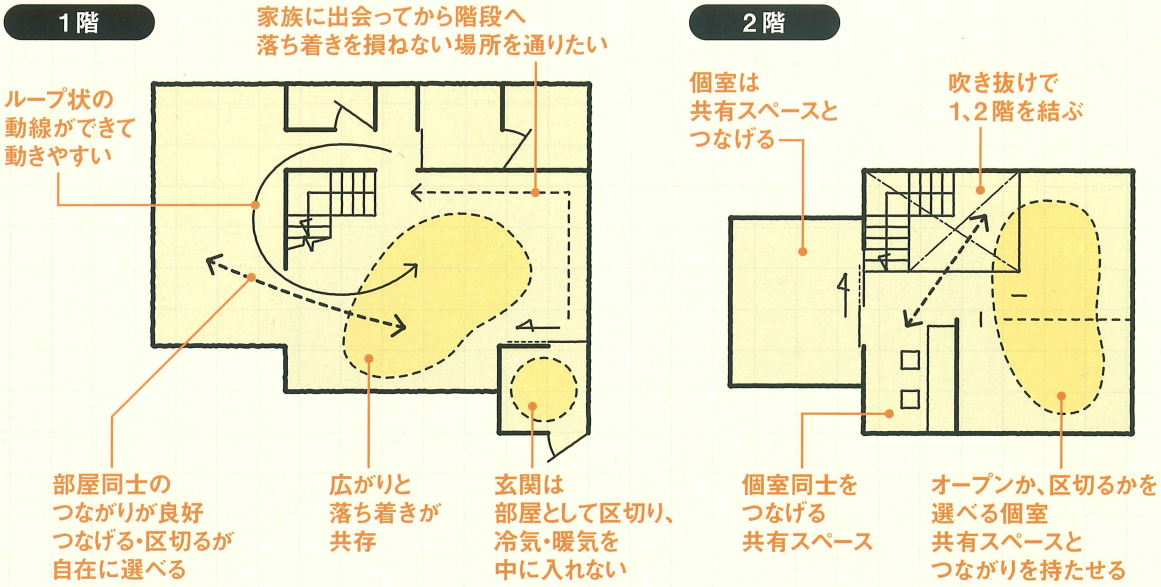


- 家族に出会ってから2階にアクセス
- 角から入るので、動線は多様だが部屋の落ち着きは損なわれない
- 部屋に広がりがある

家族間のコミュニケーションを求める度合いはそれぞれですが、ただでさえ親子や夫婦間のコミュニケーションが薄れがちな昨今、生活動作の中で自然に顔を合わせられる環境が、家の中に用意されていることが救いになります。それには、部屋と部屋、上と下の階が分断されず、緩やかなつながりをもっていることが必要。そうなるかどうかは、玄関と階段の位置が大きく影響してきます。また、つながりばかりを優先し、部屋に落ち着きがなくなってしまうのは望ましくないので、配慮が求められてきます。

模範解答例　ふれあいとつながりの良さ、広がりと落ち着きの共存を

角に配置した玄関は、囲んで引き戸を設け、居住スペースの温熱環境を守ります。玄関と階段は、動線上で家族と顔を合わせられる位置関係に。階段を建物の中よりに配置することで、ぐるりと回れる動線が生まれ、自由度が増して生活しやすくなります。また、廊下をあえて設けていないため、その分部屋を広くできる上に部屋同士のつながりがよくなり、広々した感じも出ます。2階は、個室が孤立しないように、共有スペースという緩衝帯を間に置きつつ、緩やかにつないでいます。1階と2階も、部屋と連続する吹抜けを設けて分断から救いました。



応用編　家族がごく自然に出会え、広がりが心地よい実例です

ワンルームのリビング・ダイニング・キッチンの角に玄関を配置した事例です。玄関には階段側とリビング側の2方向に引き戸があり、場合によって使い分けが可能です。リビングで家族がくつろいでいるときは、階段側から来客に対応すれば、リビングの落ち着きが損なわれません。部屋と融合する階段吹抜けを通じて、視線や声が上下階を行ったり来たり。そのことでお互いの気配を感じ合え、一体感や安心感がもたらされます。階段近くにはデスクを設けて家族共有の書斎としたので、ここもコミュニケーションの場になります。

千葉県・K邸　設計＝長谷川建築デザインオフィス　写真＝黒住直臣